

(素案)

東京文化戦略2030

～芸術文化で躍動する都市東京を目指して～

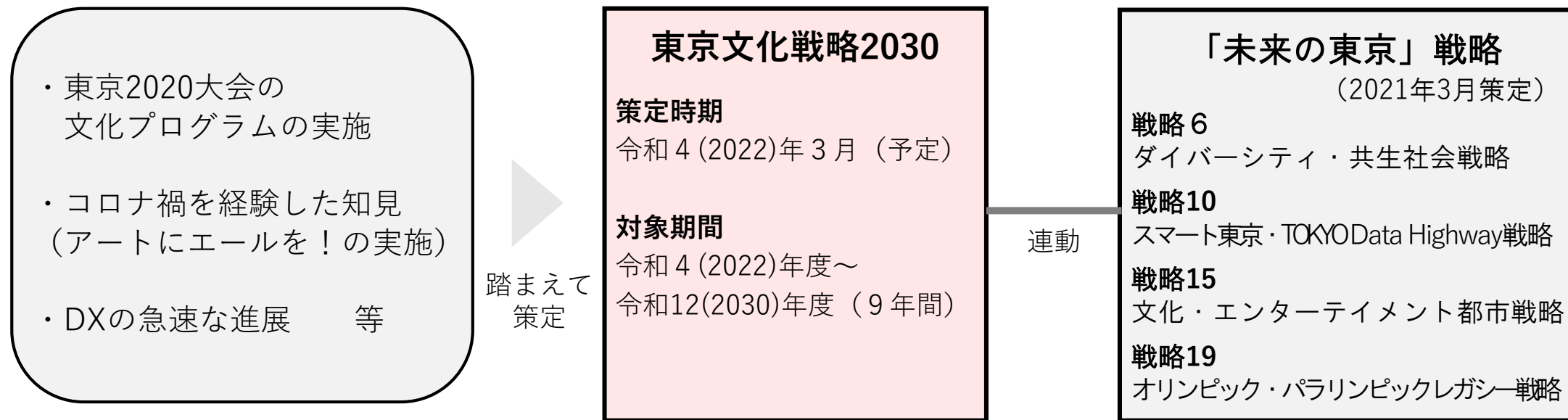
(仮称)

東京文化戦略2030 ～芸術文化で躍動する都市東京を目指して～

(1) 位置づけ

- ・ 2030年度までの長期計画として、文化行政の方向性や重点的に取り組む施策を示したものの
- ・ 東京2020大会の終了・DXの進展など、社会環境が大きく変化しているタイミングを捉え策定
- ・ 「未来の東京」戦略とも連動

(2) 策定の方針



※東京文化ビジョン(2015～2025年)
に代わる長期計画

東京2020大会 文化プログラムのレガシー

レガシー
(1) 多様な手法で、より多くの人々が**芸術文化に親しむ機会が増大した**

レガシー
(2) 多様な価値を認めあえる**共生社会の実現**に向けて着実に歩を進めた

レガシー
(3) 新技術の活用等によりアーティストの**創作意欲・経験値が向上**した

レガシー
(4) 国内外の文化団体等との強固な**ネットワークが構築**された。

レガシー
(5) **コロナ禍**を経て、芸術文化に対する人々の理解が一層促進された。

コロナ禍での
経験・知見

アートに**エール**を! で
新人・若手を発掘・成長

テクノロジー活用など
新たな表現方法の創出

都市のレガシーとして発展

「東京文化戦略2030」の方向性

都内各所で実施するまちなかアートやオンラインなど新たな手法を用いて**誰でもどこでも気軽に芸術文化を楽しめる取組**を強化

新技術により都民自ら創造・発信するなど、コロナ禍で生まれた**新たな楽しみ方を拡大**

国内外のアートの“ハブ”となる芸術文化の拠点を形成しネットワークを構築

コロナ禍を踏まえ、アーティストや芸術文化団体が**継続的に活動できる仕組み**を構築

目指す2040年代の東京の姿（将来像） ～芸術文化で躍動する都市東京～

都民がよりアートを楽しめる環境が整い、アーティストが成長。東京のアートシーンが拡大



アートので東京が成長、都民の生活がより豊かに

将来像を実現するための2030年に向けた「戦略」

心の豊かさ

戦略1 誰もが芸術文化に身近に触れられる環境を整え、人々の幸せに寄与する

～人々の**ウェルビーイング**の実現に貢献する～



プラスの効果

戦略2 芸術文化の力で、人々に喜び、感動、新たな価値の発見をもたらす

～人々を**インスパイア**する～



活性化

戦略3 国内外のアートシーンの中心として、世界を魅了する創造性を生み出す

～芸術文化の**ハブ**機能を強化する～



持続的

戦略4 アーティストや芸術文化団体等が継続的に活動できる仕組みをつくる

～持続性のある芸術文化**エコシステム**を構築する～





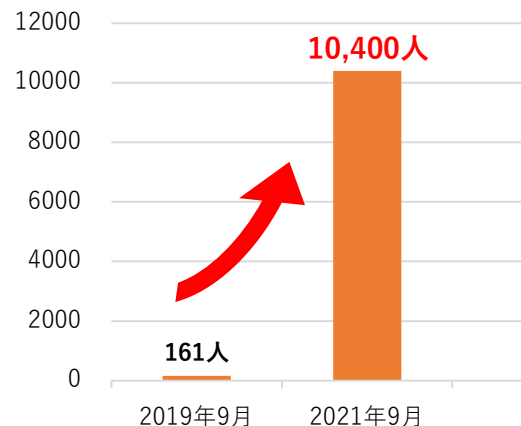
現状分析

文化プログラムを実施したことで
多くの人々が芸術文化に参加

海外の美術館・文化団体は
健康・福祉の分野で世界を牽引

鑑賞者は年齢層が高く、
10代が少ない

Tokyo Tokyo FESTIVAL公式
ツイッターのフォロワー数推移

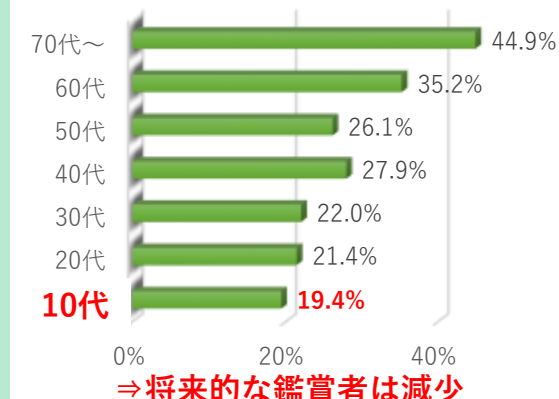


海外主要都市における
障害者プロジェクト (イメージ)



海外先進美術館での
高齢者プログラム (イメージ)

年代別の鑑賞者割合<美術・演劇等>
(2020年2月頃までの1年間)



戦略の方向性

- 芸術文化の敷居を低くし、誰もがどこでも気軽に芸術文化に触れ、参加できるようにする
- 芸術文化の力により、健康・福祉などの分野での課題解決に向けた新たなアプローチを開発していく
- 子供や若者に良質な芸術文化を鑑賞してもらう機会を増やし、未来の魅力ある東京を支える若者の創造性を育てていく



1 地域活性化プロジェクト（芸術文化の敷居を低くする取組）

基本的な考え方

- 2020大会に向けた文化プログラムで、**公園や道路、公共空間などまちなか至る所**に芸術文化の発表の場や都民が参加する場が生まれたことや、オンラインやSNSの活用などにより芸術文化の楽しみ方も増えた
- こうしたレガシーを活かして、**芸術文化の敷居を下げて、気軽にアートを楽しむことができる**場づくりを強化する
- また、祭りやイベント、伝統文化等の資源の活用により**各地に根差した魅力を発信し、地域の振興に寄与**する

■まちなかアート

どこでも気軽に



Tokyo Tokyo FESTIVAL スペシャル13
「東京大壁画」Drill Inc.



Global Bowl 設計：平田晃久
撮影：ToLoLo studio

- ・オリパラで実施した**パブリックアート**を発展
- ・区市町村と連携した**地域に根差した事業展開**
- ・企業と連携した**発表の場**の確保

オンラインの活用



最新技術を活用し、どこにいても
芸術文化を楽しめる取組を展開

■伝統芸能体験



キッズ伝統芸能体験
撮影：菅原康太



東京大茶会



木遣り

- ・キッズ向け、大人向けの**伝統芸能体験・発表**
- ・伝統芸能・伝統文化の魅力を体験できる**民間事業の支援**

劇場や美術館などの場所や時間にとらわれない、芸術文化へのアクセシビリティを実現



2 だれもが文化でつながるプロジェクト

基本的な考え方

- 東京2020大会に向けた文化プログラムで、高齢化や共生社会など社会課題の解決に向け、多様性や包摂性に着目した新たな事業を推進してきた。
- そのレガシーを生かして、芸術文化の持つ力で豊かな生活や共生社会の実現を図っていく。

大会レガシー

TURN

背景や習慣の違いを超えた人々の出会いが新たな表現を生み出す

施設のアクセシビリティ向上

各館プログラムの企画

継続・発展

《取組内容》

2022年度（以後、隔年開催）

子供も高齢者も障害者も外国人も参加

2026年度（予定）

クリエイティブ・ウェル・インターナショナル・カンファレンス（仮称）

2022年度～

都立文化施設でのアクセスプログラム（重点事業）

子供



撮影:宗彩乃（カメラマン）

高齢者



撮影：富田了平

障害者



撮影：中澤佑介

アクセシビリティの向上

アジア初の本格的な総合国際カンファレンス



同時期にショーケース、キャンプ、ネットワーキングを開催し、東京の先進的な取組を国内外に発信



大規模フェスにつながる

世界での芸術文化におけるダイバーシティ・インクルージョンの先進都市となる



3 キッズ・ユース (Kids Youth) ・プロジェクト

基本的な考え方

- 子供の頃から芸術文化に慣れ親しむことは、**豊かな感受性や表現力を育む**うえで大きな効果がある
- **子供や若年層を対象**として、**良質な芸術文化**に触れる機会を増やすための取組を積極的に推進する

■ 芸術文化に子供の頃から触れることができる取組

子供から始める



キッズ伝統芸能体験
撮影：武藤奈緒美



©Mino Inoue



- ・ キッズ伝統芸能体験
- ・ ミュージアムスタートを応援するプログラム
- ・ 子供たちと作るミュージックワークショップ
- ・ 教育プログラムの拡充

■ 若年層が主体的に芸術文化を体験する取組

中高生につなげる



キッズ伝統芸能体験 撮影：武藤奈緒美



- ・ 特別期間に18歳以下の都民を無料招待（都立文化施設）
- ・ 若年層が主体的に参加できるイベントを開催
- ・ デジタルテクノロジーを活用した新たな取組
- ・ 都立文化施設の料金体系見直し



良質な芸術文化を体験することで、将来の芸術文化ファンに



現状分析

海外の美術館では テクノロジーの活用が進展

【ルーブル美術館】

約50万点の収蔵作品を
無料オンライン公開



【ニューヨーク近代美術館】

過去の展覧会を
オンライン公開



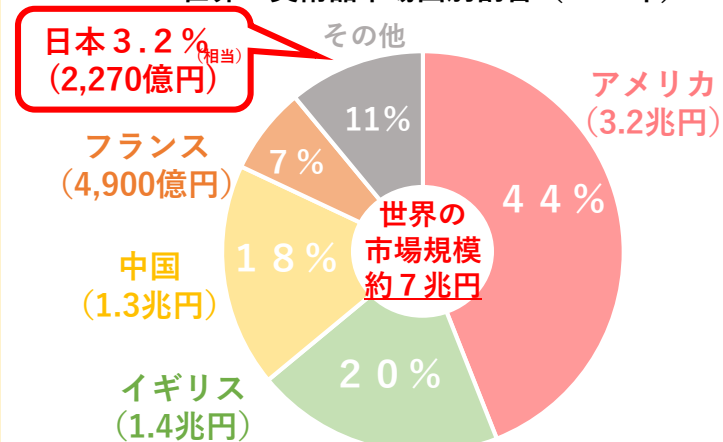
コロナ禍で生まれた 新たな芸術文化の楽しみ方

異分野コラボレーションやテ
クノロジー活用などの新たな表現



世界と比べてアート市場が小さく 拡大の余地がある

世界の美術品市場国別割合（2019年）



出所) 「日本のアート産業に関する市場調査2020」(一社)アート東京、(一社)芸術と創造

戦略の方向性

- **テクノロジーの活用を推進**し、都民にこれまでと異なる芸術文化の鑑賞・参加機会を提供する
- **新たな芸術文化の楽しみ方を提供**し、都民が芸術文化活動に主体的に参加し、自ら創造・発信できるようにする
- 企業等のアートへのアクセスを増やし、芸術文化のビジネスへの活用促進の後押しをする
- 東京の先進的で多様な**芸術文化やエンターテインメント**の力で、**国内外の観光客を魅了**し続けられるようにする



1 スマート・カルチャー・プロジェクト（デジタルテクノロジーを活用する取組）

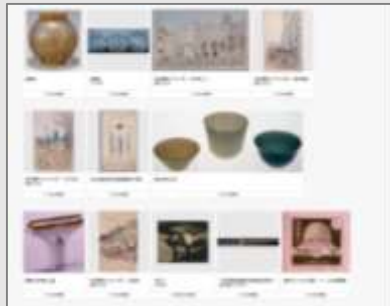
■都立文化施設での取組

都立文化施設の
情報通信基盤インフラ整備



芸劇↔ロンドンを同時中継した
コンサートを開催（2021）

デジタルデータ公開等による
東京都コレクションの利活用
（収藏品約37万点）



Tokyo Museum Collection (ToMuCo)

3D、VR、ARなどICTの積極的活用
によるオンラインコンテンツの発信



アプリイメージ
江戸博バーチャル・ミュージアム（仮称）
2022年3月公開予定

■スタートアップ企業との共同事業

都立文化施設を
実験場としたトライアル



ピッチコンテスト優勝者



都立文化施設

▶ 新たな楽しみ方創出

《～2030年》

最先端を取り入れる

- ・オンラインを併用した持続可能な芸術文化活動モデルの創出
- ・6Gなどテクノロジーの発展を常に取り入れ展開

【具体例】

収藏品デジタルデータ全面公開、3Dデータ・高精細画像公開、8Kハイブリッドライブ、VRなどのイマーシブ鑑賞、世界各地で完全オンラインバーチャル展覧会 など

■新文化戦略推進プロジェクト助成

多くの都民が楽しめる民間の事業を支援

【事業イメージ】

- ・ITやテクノロジーを活用した作品発表
- ・最新技術とアートの
コラボで新しいアート体験



MUTEK.JP

※新技術を伴う試作品作成に別途支援

▶ 将来的に大規模フェスへ

最先端技術との融合で、これまでにない鑑賞体験を創出・提供



2 「アートのある生活」プロジェクト

基本的な考え方

- ・アート作品購入経験のない層が気軽に購入できる機会や、アート鑑賞・交流を楽しむ機会、教育普及のための環境整備を行う
- ・都民の芸術文化の新たな楽しみ方を広げ、生活の中にアートを取り入れていく

アートへの入り口

■アートブックフェア（2019）

- ・若手アーティストの作品を「書籍」の形で安価に販売（**3万人**来場）



作品購入の敷居を下げる

■「アートウィーク東京」におけるギャラリー周遊事業（アートバーゼルの協力）

都内に点在する主要アートスポットを巡るアートバスを運行し、作品購入までのステップを体験

ルートの例



美術館

現代美術入門のレクチャー



ギャラリーA

画廊オーナーとの交流



ギャラリーB

アーティストとの交流



ギャラリーC

若手の作品購入へ



アートの新しい楽しみ方を広げ、アート市場を拡大



3 アート & エンターテインメント・プロジェクト

基本的な考え方

- ・東京2020大会の文化プログラムで、新しい芸術・表現方法へ挑戦する機会が増え、アーティストの創作意欲・経験値が向上した
- ・こうしたレガシーを活かし、**官民連携**して、**エンターテインメントを含め多様なジャンル**で東京のエリアをつなぐフェスティバルを展開する

都事業や区市町村と連携したフェスティバル

民間の工夫で多くの都民が楽しめるフェスティバル



将来的には都内各地をつなぐフェスティバルを行い、国内外の観光客を魅了



現状分析

東京には芸術文化資源が集中

文化プログラムの実施で国内外の芸術文化団体との繋がりができた

しかし、海外のような交流・発信の場がない

- ・約10万人
音楽家、美術家、演出家など
- ・約1,300
ホール・劇場、寄席、ライブハウスなど
- ・約100
美術館・博物館など



海外にはアート関係者が訪問した際、最新アートを知ることができる場、交流の場があるが、日本にない

ポンビドゥー・センター



展示、交流、情報発信

ケーブルファクトリー



展示、滞在制作、交流

戦略の方向性

- 芸術文化活動やネットワーキングにおいて魅力的な場を作り、東京の芸術文化を世界に打ち出していく
- 世界中から魅力ある様々な人材を呼び込み、異分野との交流により新たな創造を生み出していく
- 才能あるアーティストを発掘・育成、海外展開を支援し、東京発のアーティストとその作品の国際的評価を高めていく



1 アート・ハブ (Art Hub) ・プロジェクト

基本的な考え方

- アーティストと東京の多様な文化資源を結びつけ、世界につなぐアートのハブ拠点を形成し都市の成長につなげる
- アーティストと企業との交流の拠点として、新たな創造が生まれるエンジンとなる
- 東京の最先端で奥深いアートやアーティストを世界に発信する場とする

《取組イメージ》



TOKYOアート・ハブを中心に、一大交流・発信拠点を形成



2 海外発信プロジェクト

基本的な考え方

- 大会の文化プログラムで、海外の文化団体等との強固なネットワークが構築された
- こうしたレガシーを活かし、東京発の優れた**芸術文化を積極的に世界に打ち出していく**

海外とつながる

【文化プログラムレガシー】

「オペラ夏の祭典」で世界で活躍するアーティストが集結

国内外の文化団体等との強固なネットワークを構築

《取組内容》

- 現代美術館と海外美術館との**ネットワークを強化し、海外での企画展**を実施
⇒こうした取組を都立文化施設全体に広げていく（演劇、音楽、伝統芸能等）
- TOKASレジデンスへ**海外キュレーターを招聘し**、アーティストと交流
- 東京の若手アーティストの成長の場として、**海外での活躍の舞台を用意**する
- アフターコロナを見据え、**インバウンドを意識したフェスティバル**や事業を展開



アーカイ美味んぐ

ベネチアビエンナーレ(2019) 国際美術展 日本館

東京発のアーティスト・作品を海外に広げ、東京のアートシーンに世界の注目を集める

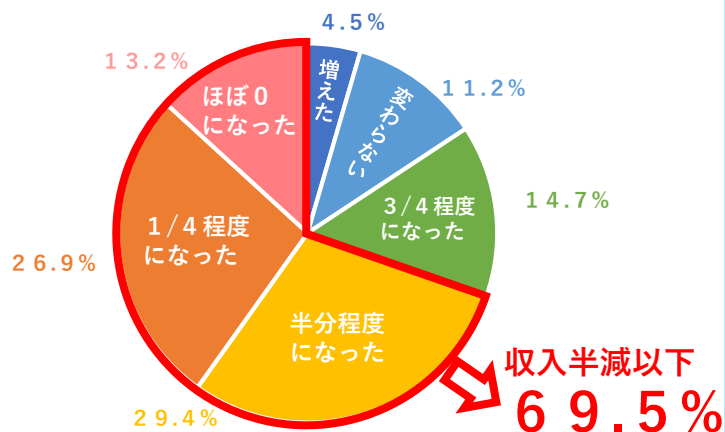


※「エコシステム」…生態系を指す言葉

現状分析

コロナ禍で芸術文化団体の約7割は収入が半減

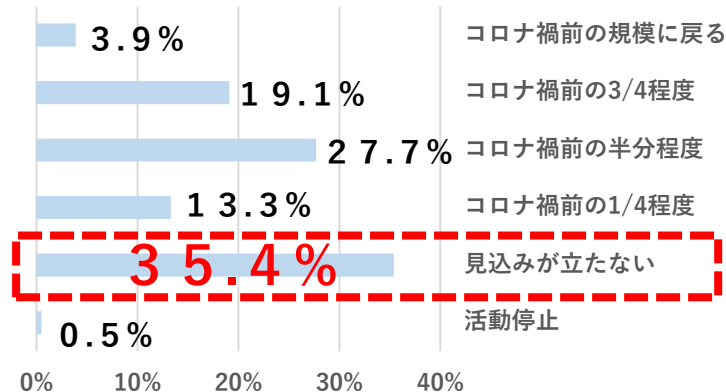
2020年1年間の文化芸術活動からの収入について



(日本芸術文化振興会、文化芸術推進フォーラム調査(2021)より)

アーティストの1/3以上が今後の活動の見込みが立たない

今後の芸術文化活動の見込みについて



(日本芸術文化振興会、文化芸術推進フォーラム調査(2021)より)

東京の制作環境を充実する必要あり

【有識者の意見】

- ・今、東京では作品を作る部分の強化が求められている
- ・地価が比較的高い東京ではアトリエが足りないことが課題
- ・東京ですら文化芸術の経営基盤の脆弱さがコロナ禍で表面化した

※東京芸術文化評議会専門委員より

取組の方向性

- 文化戦略の実現に向け、その核となる担い手を重点的に育成する。
- コロナ禍での経験を活かし、都と芸術文化団体がネットワークを形成して、新たな活動につなげていく。
- 創作場所などのベーシックなインフラの所有・維持の負担を軽減する支援を行う。
- 芸術家が環境問題へ取り組むなどの社会的貢献により、民間企業や都民による支援マインドの醸成を高めていく。



1 アーティスト・ステップアップ・プロジェクト

基本的な考え方

世界で活躍できるアーティストを段階的に育成支援するため、支援が手薄な層・内容を重点的に事業化する

■アーティストの段階的育成（現代美術分野の例）

段階的な支援

《新人》
新人アーティストに活動機会を提供

スタートアップ助成
新人アーティスト等に定額で補助

発表の場の提供

《若手》
次代を担うアーティストを集中育成
初めての個展、発表の場拡大

キュレーターによるメンタリング

展示・プロモーション支援
初めての企画展、作家毎のPR冊子作成を支援

創作環境の提供
アトリエ等を整備しアーティストへ貸与

《中堅》
国内外へのプロモーション
アーティスト自らの発信支援

現代美術の賞(TCAA)
受賞者の海外活動を支援

モノグラフ作成支援
作家の更なるPRを支援

国内外で活躍するアーティストの増加

活躍するアーティストが増えることで、新たにアートに携わる人材も増加する好循環を生み出す

- 東京のアーティストに対する評価が高まることで、東京のアーティスト全体の底上げを図る
- 現代美術だけでなく、演劇・音楽・伝統芸能など他分野にも波及させていく



2 担い手育成・支援 & 創作環境向上プロジェクト

基本的な考え方

- アーティストや技術スタッフなど**芸術文化を支える担い手**を様々な方法で**育成・支援**することにより、継続的に活動できる仕組みを構築する
- アトリエや稽古場など**創作場所の負担軽減**を図ることで、継続的な表現活動の充実を支援

■担い手育成・支援

芸術活動を応援

育てる

- ・ アーティストや技術スタッフ等の活躍をサポートする**体系的な人材育成**
- ・ 特にアーティストと都民・企業活動を結ぶ「**コーディネーター育成**」を重点化

つなげる

- ・ **芸術系大学等**との連携会議
- ・ **芸術文化団体**とのネットワーク会議

支える

- ・ 芸術文化活動を支える**プロボノ**を増やす取組
- ・ 都民や民間企業の**支援を後押し**する制度

■創作環境向上

稽古場

アトリエ

- 遊休施設等を活用し、稽古場・アトリエを整備し、低廉に貸与
- 創作場所は多くのアーティストが交流し、刺激を受けあえるエリアを選定



稽古場のイメージ



アトリエのイメージ

- アーティストを支える担い手を増やして、東京全体で芸術文化を盛り上げていく
- 多くのアーティストや関係者が、創作活動しやすい環境とする

東京文化戦略2030を実現するために（推進体制）

東京都

- ・ 歴史文化財団、都響と戦略的かつ効果的な政策連携を実現
- ・ 都立文化施設各館の特色、スケールメリットを活かした事業を展開
- ・ 庁内各局との連携を強化

< 政策連携団体に求める役割 >

- ・ 文化戦略の実現をイコールパートナーとしてサポート
- ・ 文化プログラムで培った知見やネットワークの活用
- ・ アーティストや芸術文化団体等の支援、教育・社会貢献活動

東京都歴史文化財団

- ・ 企画戦略機能を強化< 事務局とアーツカウンシル東京との一体化 >
- ・ 気候変動への対処等、サステナブル・リカバリーへの率先行動
- ・ 専門人材をさらに世界に通用する人材に育成
- ・ 企業等との連携を推進するためのコーディネート機能の強化

東京都交響楽団

- 東京五輪のレガシーオーケストラとして新たなレガシーを生み出す
- ・ 演奏力の向上
 - ・ 新たなクラシックファン層獲得
 - ・ 音楽芸術の更なる普及向上
 - ・ 練習環境の更なる向上

- 東京都と政策連携団体である東京都歴史文化財団、東京都交響楽団が協働し、東京の芸術文化を牽引
- 企業や民間団体、区市町村だけでなく、教育・福祉・観光分野など文化の領域を越えた連携を強化

「東京文化戦略2030」で『芸術文化で躍動する都市東京』を目指す

東京2020大会開催

選手村



東京都メディアセンター

東京大壁画

まさゆめ



Tokyo Tokyo FESTIVAL スペシャル13「東京大壁画」Drill Inc.

《まさゆめ》目 [me], 2019-21, Tokyo Tokyo FESTIVAL スペシャル13 撮影：金田幸三

コロナ禍でDXの急速な進展



持続性社会へのシフト



2020大会のレガシー

共生社会の実現



多様な主体との連携による芸術文化活動の地域への広がり

ウェルビーイング向上の取組が進展

アートコミュニケーター、プロノ等、主体的に活動する都民が拡大

教育、医療・福祉等、他領域で活用が広まる

新たな楽しみ方が広がり、芸術文化ファンが増える

テック企業とのコラボで新しい芸術文化体験

都民とアーティストのダイレクトな交流

作品を気軽に購入できる環境



芸術文化による経済の循環、アート市場の活性化

世界のアートシーンとつながる